めようとするものである。ここに至る経過 年を記念し、両国の友好親善をいっそう深 で正式に決まった。日中国交正常化二十周

天皇、皇后両陛下の中国ご訪問が、閣議

さわやかな「友好親善」の旅に

説

にはさまざま議論の噴出する場面もあった

座談会

東京外語大教授

領雄氏

歳、神奈川県出身。早

天卒。55

自民党外交調查会長

洋平氏

好親善が目的で、政治的意

信

東 大

教

授

大沼

保昭氏

回。外交調査会長。

が交調査会長。衆院当選9世長官など歴任。自民党を目由クラブ代表、科学技

と。あくまで天皇訪中は友でであってはならないのは、皇室外であってはならない。 これではならないことであってはならないことであってはならないことであってはならないという。

とだ。

を考えれば、両国が信頼し 合える関係を一層強めてい 合える関係を一層強めてい

り、忘れてはいけない歴史が、一部心に残る部分があ

があったことも事実だ。

天皇陛下の中国ご訪問が正式に決まった。
東京外語大教授、大沼保昭東大教授の三氏に、東京外語大教授、大沼保昭東大教授の三氏に、東京外語大教授、大沼保昭東大教授の三氏に、東京外語大教授、大沼保昭東大教授の三氏に、 に話し合ってもらった。

日本がご訪中を実現できる ない 日して、非常な熱意を持っ 大いの考えてきた。中国側は 力をし、遠慮のいらない関 月、これを真剣に検討する対して、渡辺外相は今年 と返事したが、この時点で を、日中両国が昨 返し要請してきた。これに て天皇陛下のご訪中を繰り をどのように意義付けるか 日中両国は二十年にわた。 化二十周年に当たる今年 日中国交正 これを真剣に検討する まず訪中の意義から。

っても良い結果をもたらすめっても良い結果をもたらす 和維持活動(PKO)協力 関が同じ論理で反対してお 明している。つまり左右両 式とは異なっている。ただ 共産党も訪中に反対を表

るひいきの引き倒しだ。

て当然のことで、それはあらゆるレベルでやらねばならない。天皇訪中はその一つであり、それだけをとらって天皇訪中を政治化するのは、かれて、ア皇訪中を政治化するのは、かれて、アーミアーを引いている。 の意を示すことは人間とし 与えた惨禍にきっちり謝罪 対 くなっているし、湾岸戦争 対だったチャイナカード

の分裂に国民の多くは戸惑 すなどの動きがあり、世論 訪中に反対の意見広告を出

た。自民党の中にも賛否両的に心理的亀裂をもたらし

まだろう。
ただ今回は
国内
味を持たせるのは
避けるべ

る。天安門事件の時、学生の権力的体質が絡んでいる。一つには、中国自身の権力的体質が絡んでいる。 どうみるか。 を 河野氏 天皇ご訪中問題 に慎重な論調だった中嶋さ ー んが、決定された以上、友 呼親善の実を、と発言され たことに敬意を表したい。 を振り返ってみても、両国日中の不幸な歴史的な関係

中嶋氏 中国のリーダー

か 交に今後どう対応していく 一自民党は中国の対日外 る。その中国にとって日本 しさも大きく作用してい を感じる。

N)の加盟国などの間で信 類を醸成し、関係を良く保 る国もアジア太平洋協力関 アジア諸国連合(ASEA 係会議(APEC)や東南

い。欧州共同体(EC)構 を展望することはできな を展望することはできな を展望することはできな とする責任感の表れと勇気に対する政治的責任を果た 想を見ても、あれはEC を日中関係も重要で、特に基軸だ。と同時に日韓関係 日米中三国の関係を良い関 - 一般にドイツは戦後、戦 - 一般にドイツは戦後、戦 -難、厳しい目がなかったら、 智力を持つユダヤ人の非 を言われるが、これは一面 と言われるが、これは一面 度が取れたかどうか。だか という単純なことではな、 日本が民族全体として

ばならない。

になったのに

んな外国に

問題とかは、

日本外交はそ

# 中国の「思惑」は困る中嶋氏 アジアの平和を展望 河野氏

## 全 レベルで謝罪当 然 大沼氏

大沼保昭氏 天皇の外国 が今この問題に示す意思が

でならないことは、その通 てならないことは、その通 来、国際的に孤立している。 中国に、天皇訪中でその立 中国に、天皇訪中でその立 なりだ。しかし天安門事件以 中国に、天皇訪中でその立 なりを強化しようとのもくろ みがある以上、客観的には の 政治的意味を帯びざるを得 ない。その限りで、天安門 の理論からは否定すべき皇の理論からは否定すべき皇の理論からは否定すべき皇の理論からは否定すべき皇の理論がある。本来、共産主義という。 国側の意思は、

制を日本が認めることにない。一定の されると思う。それと中国でいると思う。それと中国であり、訪中すれば大変歓迎にから中国にとって天皇 は今、ソ連崩壊を受け世界

ようだ。 米ソ冷戦の時に 的戦略を構築し直してい 。米ソ冷戦の時に有を構築し直している あろう。

・ なかじま・みねお 56 「中国論」「北京烈々」など。 関係論を中心に活躍。著書 関係論を中心に活躍。著書 は「中ソ対立と現代」「現代 中国論」「北京烈々」など。

説」「サハリン棄民」など。 おおぬま・やすあき 46 に対する戦後責任の問題でに対する戦後責任の問題でに対する戦後責任の問題で

国 結んできた、一つの正左では 二十年間にわたる両国の友 田は 二十年間にわたる両国の友 田は 二十年間にわたる両国の友 田 宝 として招待しようという中 かつての中国側の発言を かっての中国側の発言を ・日本の外交政策を考えて 大 ードイツは戦後の清算を 時確にやったが、日本の場 で 合、特に日中関係について で かってこなかったという声 があるが。 五年間、中国に与えた参るが政治問題化した最大の原が政治問題化した最大の原 ことにある。 に誠実な対応をしなかった そうい 大沼氏 国内で天皇訪中

くることになる。日本政府 えて日本側に謝罪を迫って から、あらゆる機会をとら も国民も一人ひとりが十分 う積み重ねがある

寄せされるという関係にない。な戦後責任を果たしてこな ならないことがある。例え は、いろいろやらなければ で人権のことを言うにして さいろいろやらなければ 一

宿みを日本国民は理解すべれてきたことになる。この 国民に罪はないと言い続け みを、中国政府は抑えてき 前の日本の軍国主義者と戦 一千万人もを日本 だするという こはしいと思 ことでな うことはもっ ではない ろあると思 んだが、 あるいは経済 そう、 の日中

### の償いを陛下の一言にすべてゆだねることいかねない心配がある。なぜなら、過去へ には無理があるからだ。 まっては、かえって友好親善の目的を損な 関心事がお言葉の一点にばかり集中してし れるような事態は好ましくない。両国民の 中が、「お言葉」問題一色に塗りつぶさただ、新たな日中関係の一歩を刻む天皇 るよう要望する。 ないためにも、 を防ぐことでもある。 することが、むしろ「政 ちいち問題になるとはお 気持ちを述べられるな

# 過去の戦争への謝罪は、まず何より国民

政府と国

中間報告を出している。 型地震は「ある程度の切迫性がある」との 年、二百年先と判定したが、M7級の直下 一三年、大正十二年)並みのマグニチュ M7の地震エネルギーは、 (M) 8級の巨大地震の発生可能性は百

M8の約三十 展度6

度5(強震)の恐れはお 能性があるという。 域は、七都県二百八十 そ

南関東地震

しての役割も大きく、国気のの影響は大きい。東京の る恐れもある。 い都市づくり」に▽液 産の三割を占め、企業の の一都三県)は総人口 中央防災会議の防災 南関東地域(東京、 通信

が筋であり、その趣旨 る。国会が自ら決議し の意思を代表する国会 天皇という

牲を払った。両国の将来を語る上でも、日争では、中国国民は生命、財産に多大な犠 本は過去の過ちから目をそむけるわけにい るのは「お言葉」問題である。先の日中戦 「政治利用」

## を抱かせる余地が生じていたことも否定で 門事件や尖閣諸島問題など、中国側に懸念 たのは、そのかぎりで当然であった。天安 反対論として「政治に利用される」があっ かわることを認めていない。今回の訪中の 再三の招請に日本が慎重にならざ のずと関心が向くのは避けられない。率直下が、どんな「あいさつ」をされるか、おかない。初めて中国大陸の土を踏まれる陛 とは区別して考えるべきだ。 に歴史と立ち向かうことと、 備え怠れ な

という友好関係を象徴する大きな二国間交 のか分からないのも事実だろう。天皇訪中 な節目を逃したら、 それでも国交正常化二十周年という重要 いつ実現のめどが立つ に防災対策を急ぎたい けるが、国もやっと腰を上げた。これを機 中央防災会議の地震防災対策強化地域指

解説·総合

室の姿を中国国民に印象づける良い機会にが出した談話にある通り、新憲法下での皇

てのことだ。閣議決定に当たって宮沢首相

長い日中の交流を通じ、天皇訪中は初め

行の実現を心から念じてやまない。

にふさわしく、さわやかで実りの多いご旅

時期は十月下旬、澄み渡る北京の秋空

きない。

るをえなかったのは、あながち根拠がなか

ったともいえない。

説明し、理解を得る努力を引き続き重ねて だけ広く各国に「友好親善」の訪中目的を るのはやむをえない。政府としてはできる 流が、結果として政治的な意味合いを帯び かなくてはなるま

万全に進める必要も、この際、 る。そのために両国政府が、

改めて強調

けて強化発展する契機としても、期待でき なる。日中両国民の友好関係が、将来に向

さらに準備を

天皇が政治にか

綱を初めてまとめた。財政的な裏付けに欠 政府の中央防災会議が、この地域の防災大 以上に恐れ、おののくことはないが、人口、起きてもおかしくはない」とされる。必要 客が予想される。腎戒と備えを怠れない。 諸機能の集中した過密地域だけに大きな被 直下型地震は、「ここ十年、二十年のいつ 東京を中心とした南関東地域の大規模な

型地震は数回発生すると予想され らかにした。それによると、M7級の直下 初めて、南関東地震の被害が及ぶ範囲を明 展の揺れは大きくなる。専門委員会は今回 分の一にすぎないが、機源の浅い直下型地

系統多重化▽企業、 ガス、 水道、